

9月1日は防災の日です

水の使えない状況を想定してみませんか

もしも水が出なくなったら



震災時、道路の配管が露出

て、皆さんのところに水を運んでいる水道管などの水道施設が壊れてしまったらどうでしょう。料理、洗濯、トイレ、お風呂と

蛇口をひねればあたり前のように水が流れます。しかし、地震や台風などの災害がとて多い国である日本において

震災時、水道管が破損し水が噴き出している状況



水道部所有の給水車

市民が使う1日の水を給水車で運ぶには、約1万5千台必要です。(実質的に困難)

また、新潟中越地震でも市民のライフラインが停止し、7割を越す世帯において断水で非常に困ったとの報告があります。古くなった水道管が壊れて1〜3か月水が出なくなつた地域も出ています。

実際、東日本大震災では水道管が壊れ、なんと257万世帯の人が水道を利用できなくなつてしまいました。

一番困つたのは水道



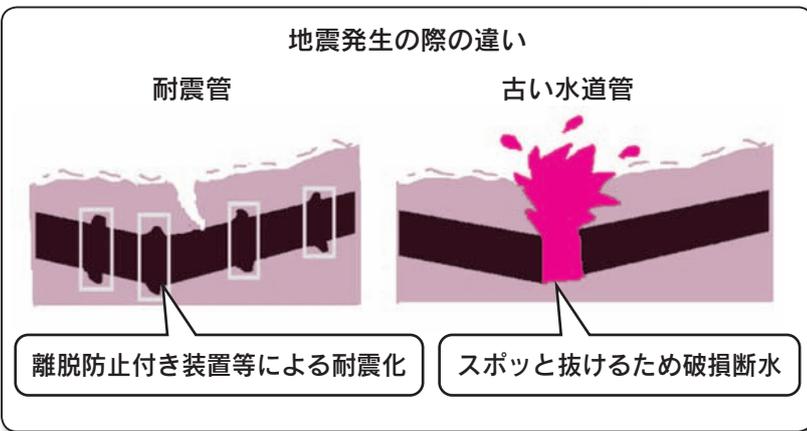
いった普段の生活が満足にできなくなつてしまいます。病院では患者さんの命にかかわる事態となるかもしれません。

管の更新は年々厳しく

水道管は、使用者からの水道料金で更新されています。将来は人口が減少し、更新財源の不足が見込まれることから、できる限り早期に更新事業を実施して次世代へのバトンタッチをしていく必要があります

災害に強い水道施設の整備

今の水道管は地震が起きても耐えられる耐震管というものに布設替を行っております。



災害水道水の備蓄をしましょう

災害に備えて備蓄する量

最低3日分

大人1人当たり 1日3ℓ

家族の人数

特に乳児のいるご家庭ではミルク用等の飲料水を確保してください。

備蓄の注意点

清潔でフタのあるポリ容器等に、空気が残らないように口元まで水を入れ、満水状態にしてください。

また、直射日光のあたらない涼しい場所で保管してください。飲み水としての水道水の保存期間は3日間が目安です。期間の過ぎた水はお風呂などの雑用水として使用できますので、無駄にしないようにご利用ください。

水道部業務課 ☎25-5221

(お客様サービスセンター経由)

FAX 23-6444